

第30回環境安全委員会 議事要旨（案）

1. 開催日時 平成26年3月5日（水）17:00～18:45
2. 開催場所 ホテルイースト21東京 永代の間
3. 出席者 中杉委員長、木下委員、榎本委員、秋田委員、綾部委員、堀田委員、
山根委員、土屋委員
(環境省) 鈴木課長補佐、中野課長補佐 (順不同)
4. 議事（公開）

【議題1】 東京PCB廃棄物処理施設の操業状況について

資料1に基づきJESCOより説明、質疑応答があった。主な意見は以下のとおり。

- 秋田委員 二次廃棄物等の搬出先を変更することに関して、以前発生したような搬送中の事故が再発することのないようにしていただきたい。
- JESCO 搬送中の安全対策について適正に管理する。
- 中杉委員長 今回の事象に伴う運転措置（スラリー投入配管の閉止処理等）に関して、JESCOだけの判断でなく、事業部会で論議したと思うが、事業部会は年に何回開催するのか。
- JESCO 年3回開催している。
- 中杉委員長 先生方の意見をメールで伺うこともできる。部会を開かずともそのような方法で、先生方を活用する機会を作るべきではないか。
- JESCO 今回の運転措置については、持ち回り開催とした。
- 中杉委員長 高圧トランスの窒素タンクでのトラブルや犠牲陽極の件など想定外のことが起こりうるので、今後はモニタリングを度々行うことが必要になってくる。また、変更管理の一つとして、今後は事前に先生方の意見を聞く手順が必要である。
- 中杉委員長 No. 3反応器はもともとスラリー投入配管がないため、今回の事象とは無縁。No. 1、No. 2は撤去したので大丈夫との判断である。幸い外部への影響はなかった。また、PCB処理量未達の要因にはならないようだ。

【議題2】 PCB廃棄物処理基本計画の変更について

資料2に基づき環境省より説明、質疑応答があった。主な意見は以下のとおり。

- 木下委員 未把握の機器の量はどのくらいと見込んでいるか。
- 環境省 北九州で調査した結果では、既知量に対して2%くらい出てきた。全国では、既知量に対して最大でも数%と考えている。
- 榎本委員 全国で100万の事業者に対し、本年度17万を調査するにしても、まだ5～6年かかる。非常に大変な作業で、調査スピードを上げないとH34年までに終わらない。国を挙げてやるべき事業ではないか。また、使用中の機器については、新たな立法が必要ではないか。
- 環境省 調査については、17万はモデル的に環境省で実施するが、基本は都道府県の管轄であり、環境省が実施した結果を基に効率的な方法を示す考え。使用中の機器については、いつかは廃棄物となり、廃掃法上は自己責任で処理することになることを強調し理解していただく。使用をやめる規制は無理だと考えている。

- 榎本委員 調査の役割を国と都道府県がお互いに押し付けないようにしてほしい。ズルズルと先送りにならないように環境省が指導力を発揮してほしい。処理委託を拒んでいる業者には、罰則を課する等の検討が必要である。
- 中杉委員長 全部を把握することはできないだろう。地方の廃工場に不明物があったりする。H34年以降について、処理可能な施設の位置づけなどを含み、どうやっていくのかあるべき姿を描く必要がある。

【議題3】 その他

特になし

－ 以 上 －